

2024年12月期第3四半期 決算補足説明資料

2024年11月14日

株式会社HANATOUR JAPAN



東証グロース コード 6561

Executive summary

2024年12月期3Q 前年同期比 33.4%増収 営業利益157.8%増益
営業利益1,151百万円 経常利益1,088百万円

2024年12月期 期末業績予想 変更なし
「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」の影響は限定的と判断
期末配当予想 30円/株

2024年1-9月 訪日外客数 26,880,200人 ⇒ 2019年比 10.1%増
9月時点で前年の年間累計を上回る

旅行事業 前年同期比 30.6%増
FIT（個人旅行者）、団体tour ともに堅調に推移

バス事業 前年同期比 22.5%増 **過去最高益**
ドライバー採用の継続、営業強化

韓国を中心に中国・台湾など
インバウンド需要・国内需要 ともに堅調に推移

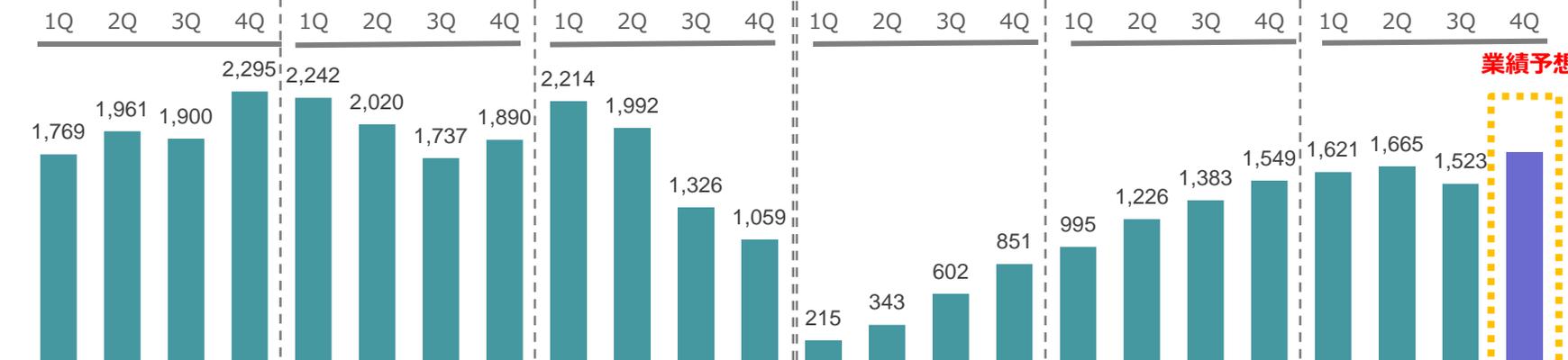
ホテル事業 前年同期比 28.8%増 **過去最高益**
国内需要、インバウンド需要ともに堅調に増加
⇒ 各ホテル ADR・稼働率 堅調に推移

売上高 営業利益 四半期推移

2024年12月期3Q 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）・台風の影響は限定的と判断

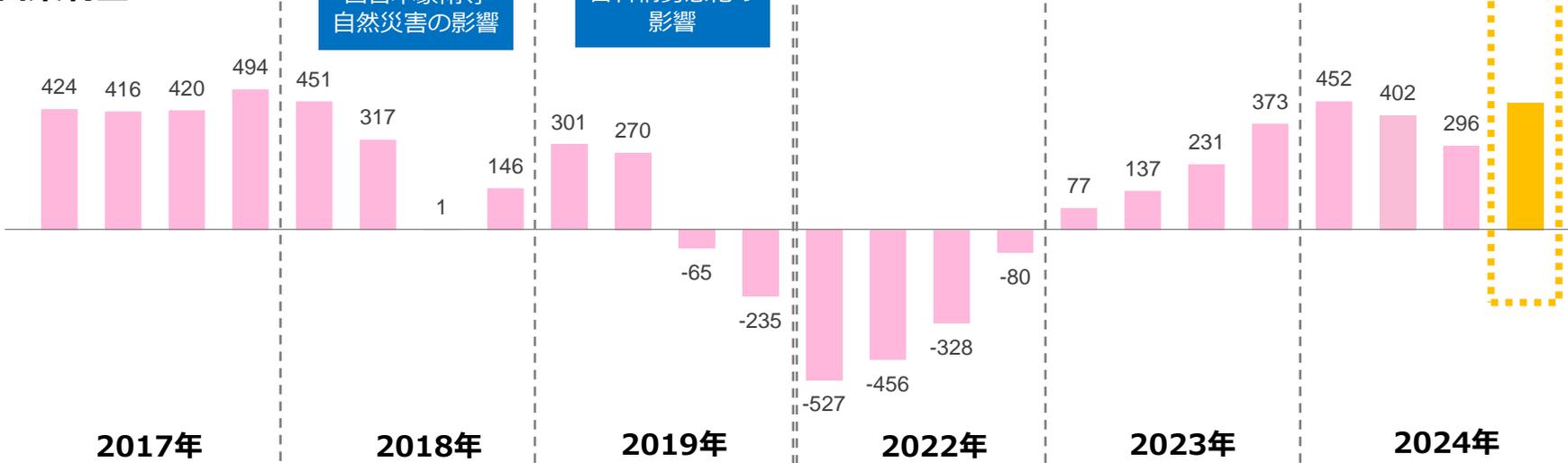
単位：百万円

売上高



2024年 3Q累計
2018年対比
80.2%

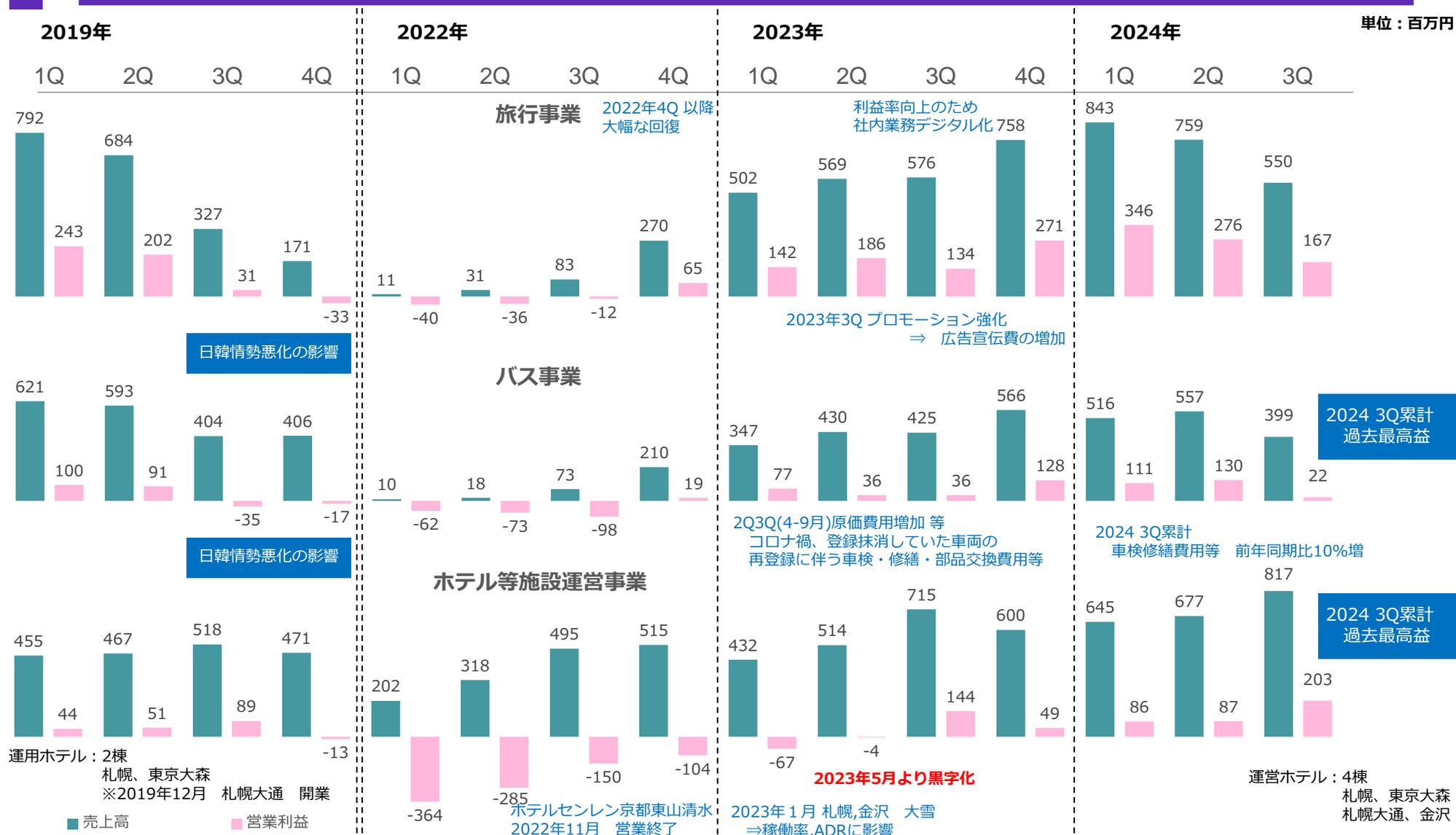
営業利益



2024年 3Q累計
営業利益1,151M

セグメント別 売上高 セグメント利益 四半期推移

2024年12月期3Q バス事業、ホテル事業 過去最高益



生産性向上

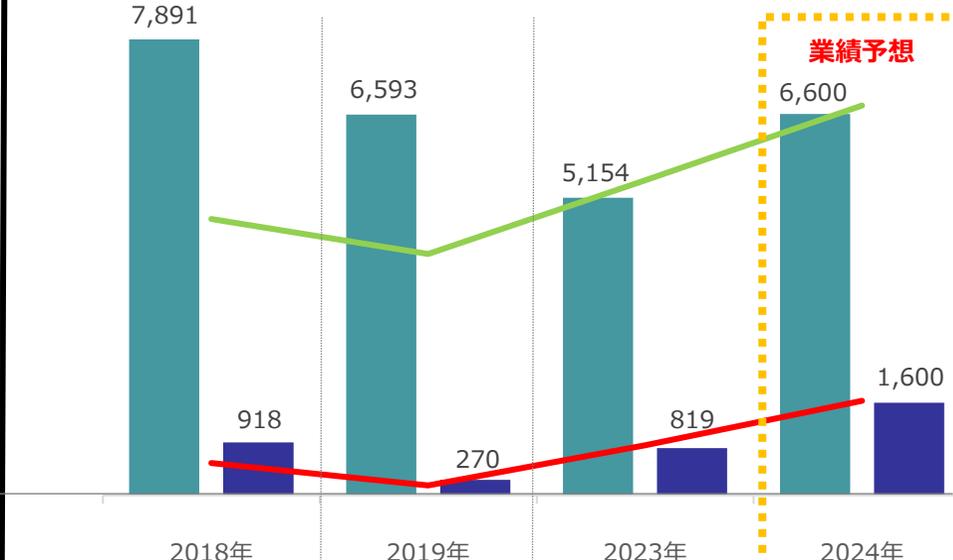
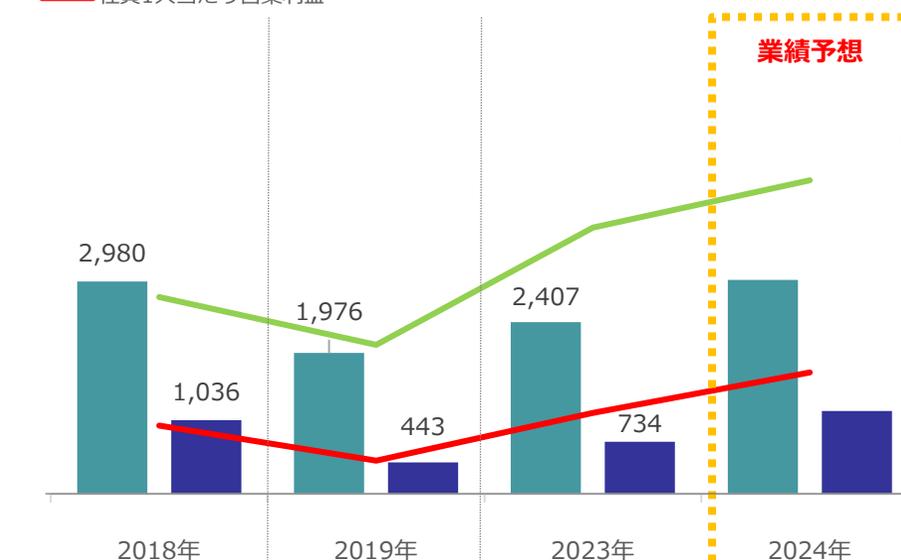
旅行事業を中心に社員一人当たりの生産性向上

- 売上高
- 営業利益
- 社員1人当たり売上高
- 社員1人当たり営業利益

旅行事業

連結

単位：百万円



旅行事業 営業人員

連結人員

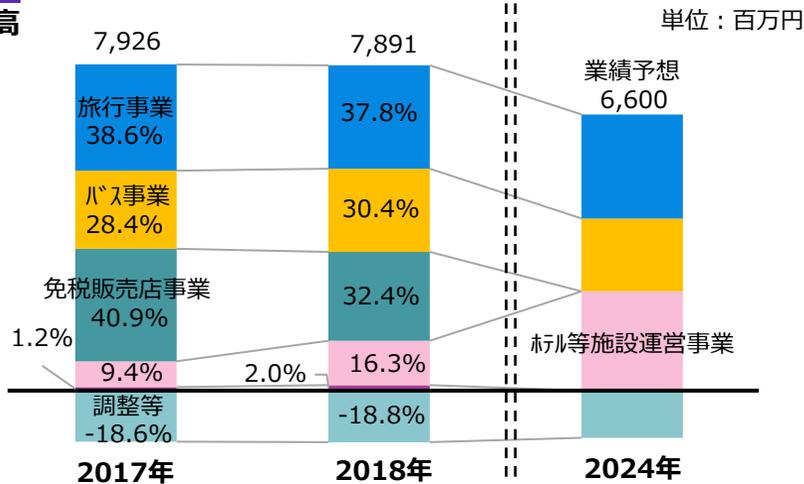
単位：人



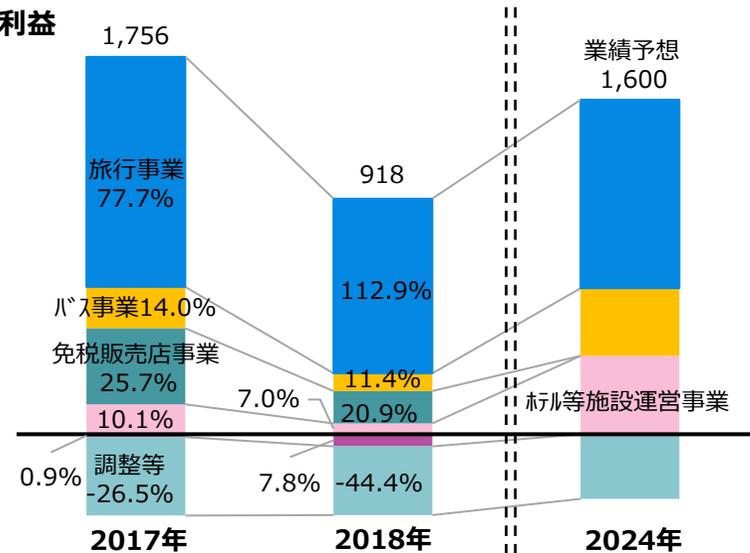
連結 事業セグメント別構成比 推移

収益構造変化 免税店事業廃止 ⇒ 運営ホテルの増加 バス事業の利益率向上にて補完

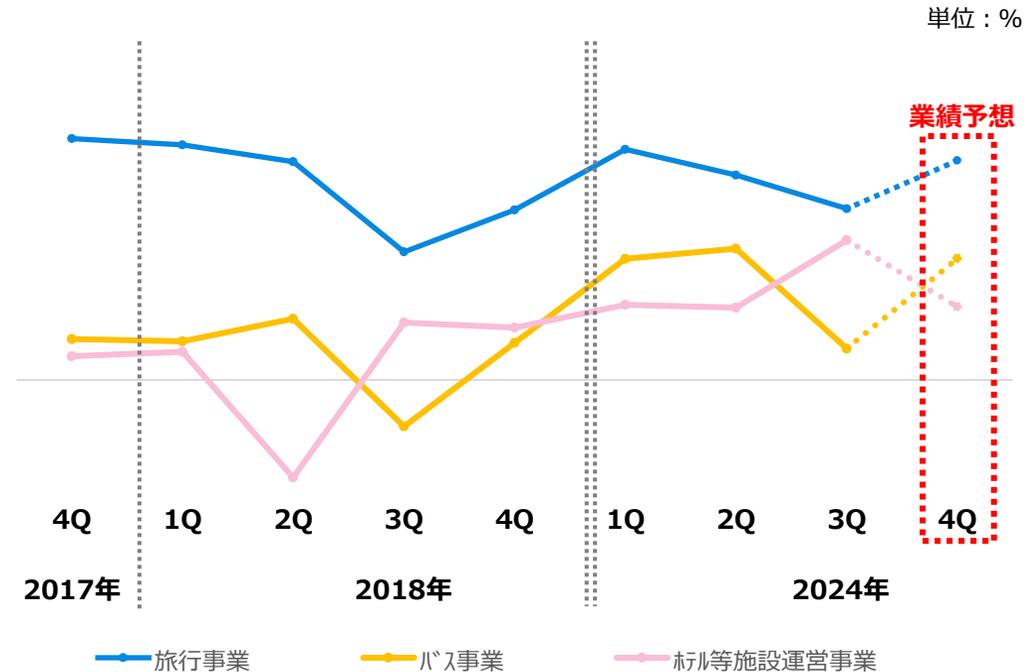
売上高



営業利益



2017年上場以降 セグメント別営業利益率推移



アフターコロナにおける各事業の利益率向上の要因

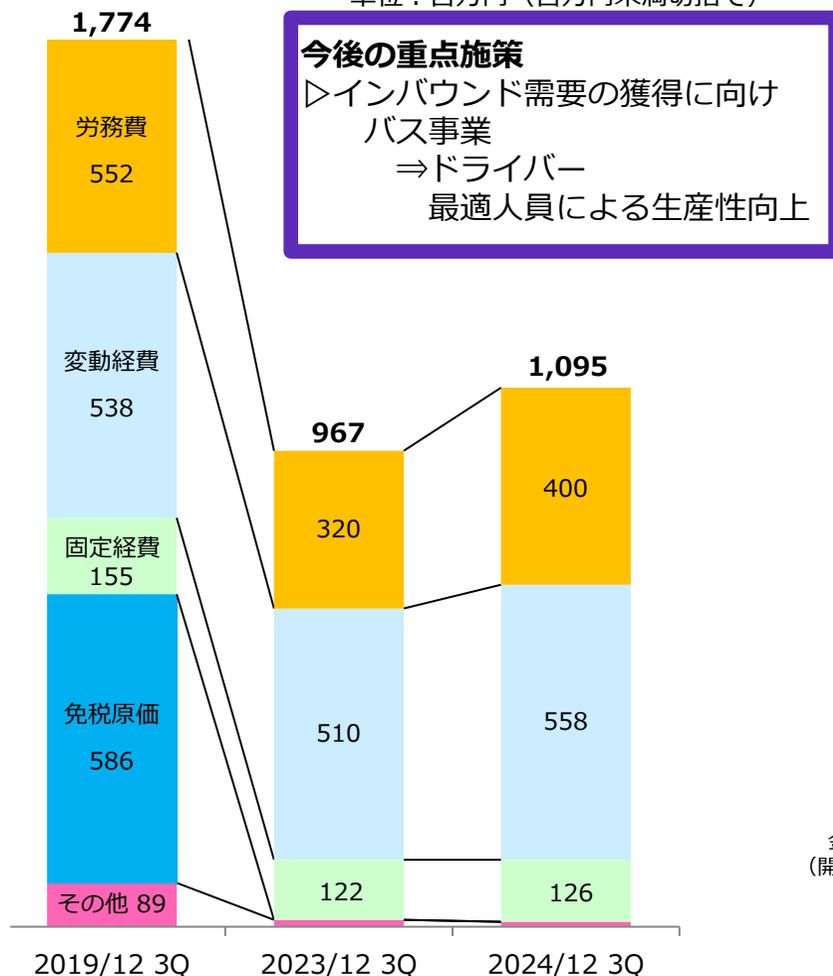
- ▶ 旅行事業
 - ・ 営業拠点の集中、最適人員数維持などによる人件費・固定経費の圧縮
 - ・ FIT向け収益の向上
- ▶ バス事業
 - ・ リースバックによるバス車両のランニングコスト圧縮
 - ・ 管理部門 最適人員数維持による人件費圧縮
- ▶ ホテル事業
 - ・ 運営ホテル 2棟 (2018年) ➔ 4棟へ増加

2024年12月期3Q コスト推移

アフターコロナ 最適人員維持 人件費・固定経費の抑制

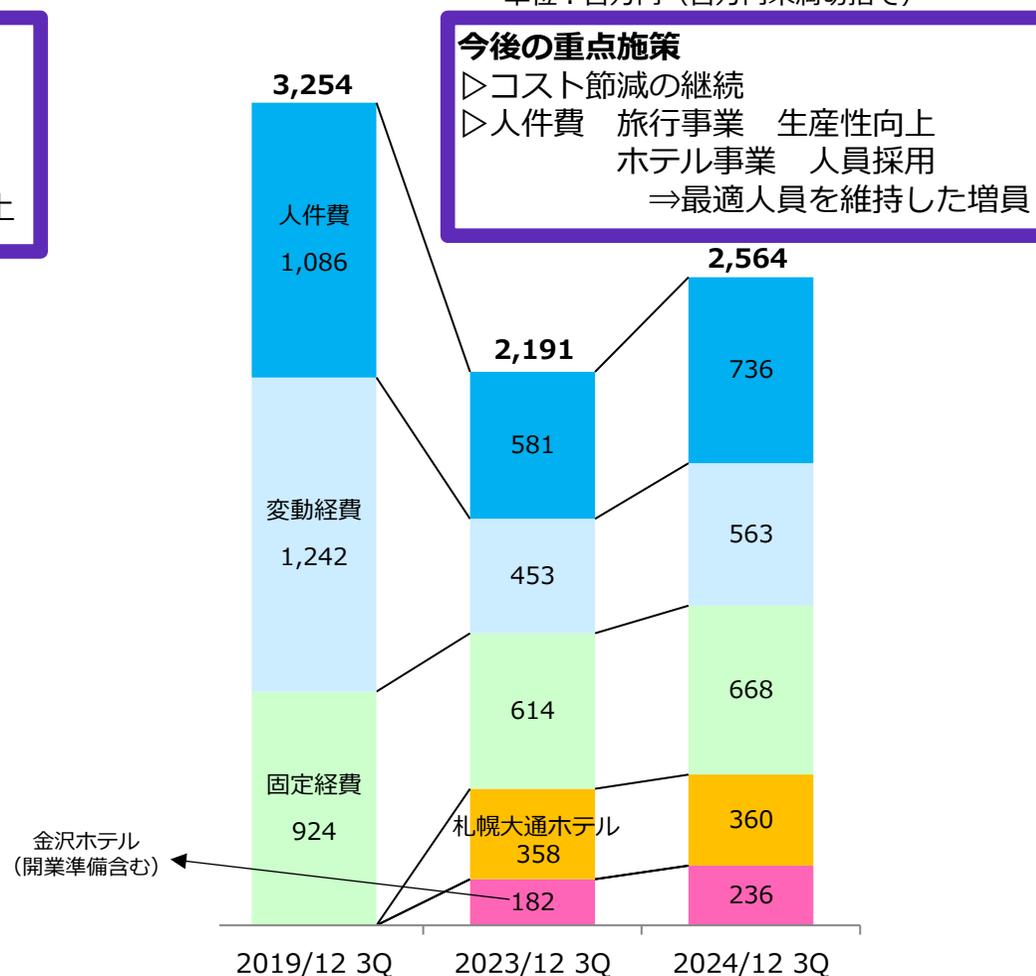
売上原価 3期比較

単位：百万円（百万円未満切捨て）



販管費 3期比較

単位：百万円（百万円未満切捨て）



国際定期便の状況

主要空港 国際線便数 回復 地方空港 回復遅延（中国・香港）

2019年夏ダイヤ

エリア	空港	韓国	中国	香港	台湾	タイ	その他
	新千歳	○	○	○	○	○	フィリピン、米国 他
北海道	旭川				○		
	函館				○		
東北	青森	○					
	花巻		○		○		
	秋田						
	仙台	○			○		
	福島						
	新潟	○	○		○		
関東	成田	○	○	○	○	○	世界各国
	羽田	○	○	○	○	○	世界各国
	茨城	○	○		○		
東海	静岡	○	○		○		
	中部	○	○	○	○	○	インドネシア、シンガポール、米国 他
北陸	富山	○	○		○		
	小松	○	○	○	○		
近畿	関西	○	○	○	○	○	世界各国
中国	岡山	○	○	○	○		
	広島	○	○	○	○		シンガポール
	米子	○		○			
四国	高松	○	○	○	○		
	松山	○	○				
	山口						
九州	福岡	○	○	○	○	○	シンガポール、フィリピン 他
	北九州	○			○		
	長崎		○	○			
	佐賀	○	○		○		
	宮崎	○			○		
	鹿児島	○	○	○	○		
	大分	○					
	熊本	○			○		
沖縄	那覇	○	○	○	○	○	シンガポール
	下地島						
	新石垣			○	○		

2024年夏ダイヤ

エリア	空港	韓国	中国	香港	台湾	タイ	その他
	新千歳	○	○	○	○	○	シンガポール
北海道	旭川				○		
	函館				○		
東北	青森	○					
	花巻				○		
	秋田				○		
	仙台	○	○		○		
	福島				○		
	新潟	○	○		○		
関東	成田	○	○	○	○	○	世界各国
	羽田	○	○	○	○	○	世界各国
	茨城				○		
東海	静岡	○	○				
	中部	○	○	○	○	○	東南アジア、米国、フィンランド
北陸	富山		○				
	小松	○	○		○		
近畿	関西	○	○	○	○	○	世界各国
中国	岡山	○	○		○		
	広島	○	○		○		シンガポール
	米子	○					
四国	高松	○	○	○	○		
	松山	○			○		
	山口						
九州	福岡	○	○	○	○	○	東南アジア、米国 他
	北九州	○					
	長崎		○				
	佐賀	○	○		○		
	宮崎	○					
	鹿児島	○	○	○	○		
	大分	○					
	熊本	○			○		
沖縄	那覇	○	○	○	○	○	シンガポール
	下地島	○					
	新石垣						

⇒主要空港

国際線便数回復割合

19年夏比(全体)	104.7%	106.8%	101.1%	108.6%	90.3%
19年夏比(主要空港)	106.6%	109.9%	107.0%	111.1%	90.3%
19年夏比(地方空港)	87.7%	61.8%	35.3%	93.3%	-

⇒19年比未再開路線

出典：国土交通省「国際線就航状況」をもとに当社作成。

主要空港である那覇は、国際線回復は約7割。

2024年12月期3Q 実績Summary

2024年12月期3Q 前年同期比157.8%増収

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2023/12		2024/12 前期比			
	3Q	構成比	3Q	差額	増減率	構成比
売上高	3,605	100.0	4,810	1,205	33.4	100.0
営業利益	446	12.4	1,151	704	157.8	23.9
経常利益	401	11.1	1,088	687	171.2	22.6
親会社株主に帰属する 当期純利益	818	22.7	998	179	22.0	20.7
1株当たり当期純利益(円)	65.18		79.50			
自己資本	1,444		2,847			

2024年12月期3Q 損益計算書

各事業 稼働増加 人件費 変動経費 増加

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2023/12		2024/12 前期比			
	3Q	構成比	3Q	増減	伸率	構成比
売上高	3,605	100.0	4,810	1,205	33.4	100.0
売上原価	967	26.8	1,095	127	13.2	22.8
売上総利益	2,638	73.2	3,715	1,077	40.9	77.2
販管費	2,191	60.8	2,564	372	17.0	53.3
うち人件費	679	18.8	849	170	25.1	17.7
営業利益	446	12.4	1,151	704	157.8	23.9
経常利益	401	11.1	1,088	687	171.2	22.6
親会社株主に帰属 当期純利益	818	22.7	998	179	22.0	20.7

売上原価
・バス事業： +94百万円
・ホテル事業： +27百万円

販管費
・旅行事業： +115百万円
・バス事業： +62百万円
・ホテル事業： +146百万円
▷稼働率増加による 変動経費増+117百万円
・調整他： +49百万円

営業外損益
・コロナ等助成金
▷前期： 15百万円
・為替差損益
▷前期： 1百万円
▷当期： △8百万円

税金費用
・法人税等調整額(益)
▷前期： 416百万円
▷当期： △93百万円

2024年12月期3Q セグメント別

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

		2023/12 3Q	2024/12 3Q	前期比		
				増減	伸率	構成比
旅 行 事 業	売 上 高	1,648	2,153	505	30.6	44.8
	セグメント利益	463	791	328	70.8	68.7
	利益率	28.1	36.7	8.6	-	-
バ ス 事 業	売 上 高	1,202	1,473	270	22.5	30.6
	セグメント利益	149	264	114	76.4	23.0
	利益率	12.5	17.9	5.4	-	-
ホテル等施設運営事業	売 上 高	1,662	2,141	478	28.8	44.5
	セグメント利益	73	377	303	414.2	32.8
	利益率	4.4	17.6	13.2	-	-
そ の 他	売 上 高	30	39	9	30.5	0.8
	セグメント利益	△ 1	4	5	-	0.4
	利益率	-	10.6	-	-	-
小 計	売 上 高	4,543	5,807	1,264	27.8	120.7
	セグメント利益	685	1,437	752	109.7	124.8
	利益率	15.1	24.8	9.8	-	-
調 整 等	売 上 高	△ 938	△ 996	△ 58	6.2	△ 20.7
	セグメント利益	△ 238	△ 286	△ 47	-	△ 24.8
	利益率	-	-	-	-	-
合 計	売 上 高	3,605	4,810	1,205	33.4	100.0
	営 業 利 益	446	1,151	704	157.8	100.0
	利益率	12.4	23.9	11.6	-	-

2024年12月期 業績予想

2024年12月期 前期比28.0%増収 95.2%営業増益予想 配当予想 30円/株

単位：百万円（百万円未満切捨て）、%

	2023/12		2024/12 前期比			
		構成比	予想	増減	伸率	構成比
売上高	5,154	100.0	6,600	1,445	28.0	100.0
営業利益	819	15.9	1,600	780	95.2	24.2
経常利益	766	14.9	1,450	683	89.2	22.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,221	23.7	1,400	178	14.6	21.2
1株当たり当期純利益	97.32		111.50			
1株当たり配当金	-		30.00			

2024年12月期 今後の重点施策

営業基盤の強化

経営効率化

需要獲得・事業拡大への取組

旅行事業

- ▶ 営業拠点の拡張
東京本社・九州営業所・北海道営業所
韓国営業所・インドネシア事務所
⇒ 国内外新拠点の開設検討
- ▶ 人員最適化
及び業務デジタル化による生産性向上

- ▶ インバウンド需要獲得に向けた取組み
 - ホテル、旅ナカ商材等 仕入強化
 - 海外AGTへの営業強化
- ▶ FIT（個人旅行者）向け
新プラットフォームの開発推進

バス事業

- ▶ 営業拠点：東京・大阪・北海道・福岡
⇒ 人員最適化
及び業務デジタル化による生産性向上

- ▶ 国内AGTへの営業強化
- ▶ 国際便クルーなど送迎事業の拡大
- ▶ 各事業所 ドライバー増員

ホテル等
施設
運営事業

- ▶ 運営ホテル
「Tマークシティホテル」ブランド 4棟
- 人・機・材によるADR・稼働率向上
- 人員最適化による生産性向上
- ランニングコストの見直し

- ▶ 国内・インバウンド・FIT需要獲得に向けた取組み
 - 国内旅行エージェント・OTAへの営業強化
 - 海外旅行エージェントへの営業強化
 - グローバルOTA対応強化

財務体質の改善

生産性 利益率の向上
余剰資金 → 早期弁済へ

- ▶ 自己資本比率の向上
- ▶ 安定配当の実施

ディスクレームー

- 本書には、当社に関連する見通し、将来に関する計画、経営目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する現時点での仮定に基づくものであり、当該仮定が必ずしも正確であるという保証はありません。様々な要因により実際の業績が本書の記載と著しく異なる可能性があります。
- 別段の記載がない限り、本書に記載されている財務データは日本において一般に認められている会計原則に従って表示されています。
- 当社は、将来の事象などの発生にかかわらず、既に行っております今後の見通しに関する発表等につき、開示規則により求められる場合を除き、必ずしも修正するとは限りません。
- 当社以外の会社に関する情報は、一般に公知の情報に依拠しています。

【お問い合わせ先】

株式会社HANATOUR JAPAN

経営管理部

TEL 03-6629-4755

ホームページ <http://www.hanatourjapan.jp/>